

# TPDS NEWS



※ TPDS = Tokyo Plastic Dental Society = (一社) 東京形成歯科研究会

**Vol.98**

配信日：2025 年 12 月 2 日

配信元：(一社) 東京形成歯科研究会 事務局

理事長 寄稿文 紹介

“ 親子鷹の歯科医の害獣ハンターに同行して思う事 ”

理事長 奥寺元先生

当会の理事長 奥寺元先生からの寄稿文をご紹介します。

記事の内容につきましては、別紙※の通りでございます。

## 事務局より

会員の先生方から情報提供いただければ、その都度、施設長に相談して、「TPDS NEWS」にて配信させていただきます(施設長より)。従来は、歯科・医科に関する内容を配信しておりましたが、北村先生のご指導もあり、「TPDS NEWS」を会員・関係各位の交流の場(ツール)として活用していただくことを目的に、配信する内容(企画)の幅を拡大することと致しました。お気軽に「TPDS NEWS」の材料(ネタ)を事務局まで(下記)ご提供いただけると幸いです。ご検討の程、何卒宜しくお願い申し上げます。※反社会的内容等の場合は、配信を断念する場合もございます。予めご了承ください。

〒114-0002 東京都北区王子 2-26-2 ウェルネスオクデラビルズ 3F

一般社団法人東京形成歯科研究会 事務局

Email: [info@tpdimplant.com](mailto:info@tpdimplant.com)

TEL:03-3919-5111/FAX:03-3919-5114

“親子鷹の歯科医の害獣ハンターに同行して思う事”

近年今までにない熊の被害が続出している。先日友人親子が害獣ハンターの免許を持ちそのみまわりに見学同行した。

これだけの多くの被害が出ているのに、アーバン熊出現や動物生態学のその原因がなかなかはっきりとした科学的解釈が出てこない。

その責務は役所かハンターなのか複雑である。私共、医学的問題であれば普通であれば医学的解明のため医科学的に一生懸命医学従事各方面でコロナ渦のように努力する。その折も社会的獣医師の役割が見えてこない注射がうまいのは薬剤師より獣医でありその感染源は動物から？

熊の問題は動物生態学などから獣医師が先頭を切って獣医師医師会が行われなければならないのに、存在は全く見えてこない。どうなっているのでしょうか？

以前問題になった K 大学の獣医学部の新設問題、職種は需要と供給があるのかかわらず。また多種多様な職種に係れる優遇された獣医でありながら、獣医学大学は増やさないと獣医医師会こぞっての大反発その背景に増やすと歯科医師のようになってしまいますと大合唱？と歯科大学を例に挙げられますが、歯学医学の究極的目的地は疾病の根絶にありその目的に精進して居ることが大きな違いがあり、その実績に永年口腔ケア運動に精進してきたその結果あの悲惨な一億総虫歯時代を乗り越えて齲蝕り患の減少を勝ち取った。ほかにない自分たちの職業を低迷させる行為を良しとしての倫理観に徹している職業です。そういう意味で広く信頼を持たれ国民に定着さ重要な医療機関です。先の獣医師会は都会での犬猫ブームに係りずいぶん景気がいいようで歯科医開業との差が気になります。

獣医師会の現状はあの悲惨な鳥インフルエンザや口蹄病その他のウイルス感染の研究の犬猫の歯周病、野放しの犬猫等の蔓延で啓発の低迷でやることはあるはずですが。

然し獣医開業の繁栄のそのブームに乗れずかたくなに生命倫理を抱き良く教を説いた故厳父と同じ教を弟の獣医師は別かも？厳父は老医師として晩年まで従事したい街の老樹医師として有名であった。夜中に来院を待っていた、その姿は志村けんの老医師であのむずかしい硬い皮の注射を手を震えながら一発で血管に挿入したのを見て感動を覚え、しかも老年の容貌と手の震えでは即座に飼い主が「もう結構です」と帰るはずが静かに固唾をのみ見ている姿としかも深々と頭を下げて帰る姿には驚きであり、日中仕事上自分の愛玩動物を瀕死の状況に置いて連れて来れぬ家庭環境考えた場合現在社会のひずみも垣間見れたことであった。

そういう獣医師がいるが半面、獣医師医師会は医師・歯科医師の監督官庁の違いがあるかも知れない？厚生労働省はそれだけ厳しさがあるが生命理論は同じである。垣根を超えた生命倫理を考えるべきと思う、害獣問題・感染症の蔓延を考えた場合縦割り行政ではないことはわかるはずですが。

熊の出現弊害に絡み歯科医師の社会的貢献に思うことを述べました。

2025 年 冬 理事長 王子歯科クリニック 奥寺元